

正観寺

菊池市の中心部にある正観寺は、菊池一族が繁栄した 1300 年代から 1400 年代にかけて、一族の最も重要な宗教施設であった。臨済宗の寺院は、菊池武光（1319-1373）が 15 代当主に就任した直後の 1344 年に創建された。武光は、戦時中に最も成功した菊池氏の指導者として、また影響力のある改革者として記憶されている。

正観寺の創建は、武光がリーダーとしての権威を確立するための努力の一環であった。その後、菊池氏率いる同盟が九州全域を支配するまで、武光は一族の領土と影響力を拡大していった。城下町の隈府（現在の菊池市中心部）を本拠とした武光の改革には、隈府にある 5 つの禅寺を一族の保護下に置く「菊池五山」制度の創設が含まれる。その見返りとして、これらの寺院は菊池氏に仕え、様々な行政的、宗教的任務を果たした。

正観寺は五山の上に位置付けられ、その特権的な地位によって、武光とその子孫の当主のもと、西日本で最も影響力のある寺院のひとつまで成長した。1300 年代後半には、境内には 14 もの堂宇があり、1400 年代後半まで寺は学問の重要な中心地であり続けた。

菊池武光は正観寺に葬られた。彼の墓は 19 世紀に修復され、本堂の近く、現在の寺の墓地とは反対方向にある。